美浦村

姉妹村青年と交友誓う

成立させたい両村青年の結婚

横越村

十一月十五日から三泊四日の日程で、横越村連合青年団員38名と田村助役、田中公民館長、泉沢主事らは、姉妹村である茨城県美浦村を訪問し地元青年との交歓研修会を行った。

一行は、十六日美浦中学校で糸賀村長をはじめ、村首脳部、村議会議員、教育委員、公民館長、婦人会長、そして歴代青年団長と地元青年多数に迎えられ歓迎会が催された。

席上糸賀村長から「13年有余の交流は、私たちに大きな指標を与えてくれた。本村で開かれた第二十九回茨城国体馬術競技が成功裡に終ったのも、若い青年の力を中心とした村民の結束にほかならない。今後も更に両村青年らの交友を深め、両村の発展に寄与してほしい」とあいさつがあった。

また貝塚村議会議長から「この長き交流で一組のカップルも誕生しないのは不思議。是非この機会に両村青年がめでたく結婚されるよう希望する」と祝辞が延べられた。

地元青年との交流会日程は十六日午後から「社会の変ぼうと青年団活動」をテーマに三つの分科会で熱心に意見交換がされた。

同日夜は、四地域に分かれ交歓会がもたれた。

翌十七日は、鹿島工業地帯犬吠崎、成田市などを見学したあと、夜は美浦村中学校で軽スポーツ、レクリエーション交歓会などを行って交友を深めた。

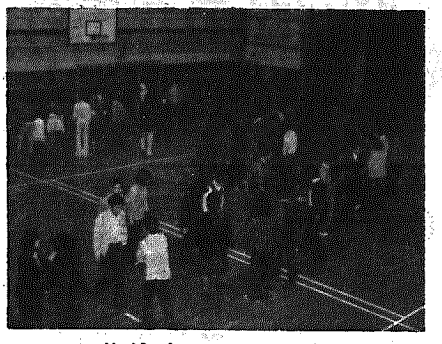
十八日、二月に本村を訪問されるよう誓い合い帰朝した。

美浦村との交流会は昭和36年2月に、同村青年が本村を訪れたのが最初で、本村青年は、36年7月美浦村を訪れている。

その後、40年3月と7月に両村議員が、40年8月、41年2月に両村青年、また43年8月と44年2月には両村青年と婦人が交流会を行っている。

そして46年8月、47年2月に青年の交流会が行われた。

その間姉妹村を結ぶなどしてお互いに交友を深め、両村の発展に努力をしてきた。



美浦中でレク交歓

三地区柔剣道大会

横越勢の活躍めだつ

亀田、横越、両川地区柔剣道大会は、去る十一月三日文化の日に横越中学校を会場にして行われた。

この大会は、亀田と横越で毎年隔年で行われていたが、今年から両川地区も加わり盛会に行われた。

本村の成績は、柔道団体で小学生A組と、一般で優勝また剣道団体でも小学生A組、中学生A組、一般B組が優勝した。

個人戦でも七種目のうち三種目に優勝し、今年も横越勢の活躍はめざましかった。

成績は次のとおり（一位のみ）

☆柔道団体
○小学生　木津小A
○中学生　亀田中A
○一　般　横　越

☆柔道個人
○小学生　伊藤和彦（横越）
○中学生　荒井一弘（亀田）
○一　般　後藤民三（亀田）

☆剣道団体
○小学生女子　亀田小
○小学生男子　木津小
○中学生　横越中A
○一　般　横越B

☆剣道個人
○小学生男子　飯野浩則（横越）
○中学生　中村大輔（亀田）
○一　般　串田徳行（横越）
○小学生女子　渡辺弘美（亀田）

体育協会部門紹介

スキークラブ

たゞきました。

本村には、スキーに親しむ人たちが多くおりますが同じ地域に住む同好の士が顔を合せる機会が少なく、この部の結成を機に冬期の運動不足解消と楽しいスキーライフが出来ればと期待しています。

体育協会の発足と同時にスキークラブが結成され協会に加盟させていたゞきます。

スキーは、他のスポーツと違い、非常に自然の影響に左右されやすいが、銀世界で冬の陽射を浴び、広大なスロープを滑り下るなんて実に素晴しいことです。

現在、スキークラブ部員は男女を合せて十数名にすぎませんが、部員の中には、始めたばかりの人もおりますし、「アシ前はドウモ……」と云いながら十数年の経験者もおります。

また、全日本スキー連盟一級クラスもゴロゴロしておりますので初歩的な指導なら出来るかと思います。

スキークラブの活動としては、クラブ員の親睦をはかることはもちろんですが、スキーの楽しさを知ってもらうためにスキー映画上映の会、二月には、「村民スキーのつどい」を計画しております。

スキーを滑ったことのある人はもちろん、初めての人でも気軽に参加出来るよう検討中です。

将棋、村木勧氏が二連勝

第二回囲碁将棋大会

第二回村民囲碁将棋大会は去る十一月二十三日横越村公民館で開催された。

大会には、小学生13名、高校生1名、一般18名、高令者7名が参加して熱戦がくりひろげられた。

村木勧氏が将棋一般の部で昨年に続き優勝した。

成績は次のとおり。

☆囲碁（一般、高令者）
一位　江口慶吉（木　津）
二位　渋谷　泉（二本木）
三位　井上　慈（川根谷内）

☆将棋
○小学生
一位　鈴木俊明（小杉小）
二位　山田洋一（木津小）
三位　藤田修一（横越小）
○一般・高校・高令者
一位　村木　勧（二本木）
二位　伝　富男（木　津）
三位　田村才吉（小　杉）

「文化の日」

多彩な行事で村民を憩う

十一月三、四日横越村公民館では、恒例により各種の文化祭行事が開催された。

菊花展は文字通り文化の日に花を添えた。

今年の菊花出品は、菊花の成育が遅れていることや搬入時の強風と雨にたたられ、予定していた鉢数の½の二三〇鉢でしかなかった。

それでも出品されたものは逸品ぞろいで審査員をおどろかせた。

総合成績で高橋達栄氏が二年連続優勝し、村長賞を獲得した。

また、菊花同好会のはからいで設けられた特別賞には、加藤正喜氏が衆議院議員稲葉修賞を、岩田一司氏が衆議院議員旗野進一賞、そして参議院議員佐藤隆賞と、県議会議員石塚光雄賞を獲得した。

菊花展総合成績
一位　村長賞　高橋達栄
二位　議会議長賞　岩田一司
三位　教育委員長賞　島原倉造
四位　公民館長賞　加藤正喜
五位　農業委員会長賞　田中三勇次
六位　農協組合長賞　伊藤千代吉
七位　商工会長賞　小川ミサヲ

（チャリテーバザー）

芸能祭は、今年から公民館と青年団で共催して行われた。

第一部、郷土芸能では、村内にある神楽、しし舞、四方舞、民踊などが披露された。

席上北の潮、貫ノ花、そして本県出身の三力士も出場、数年ぶりに横越上の相撲甚句も披露し華をそえた。

第二部、のど自慢大会では、歌謡曲をはじめ、フォークソング、民謡などに青年、婦人、高令者などが多数出場し、得意ののどを聞かせた。

また、水原町落語研究会の特別出演もあり横越中学校体育館に集った五〇〇人の観覧者の爆笑をかった。

青年団では、この芸能祭で記念手拭いをつくり、チャリテー即売を行ない売上金を恵まれない人たちに寄金した。

婦青女子部でもチャリテーバザーと手芸作品の即売を行った。

このほか公民館では、楽焼展を。また横越村商工会では清酒試飲コンクールを開催、清酒五銘柄をあてようと会場にはツマものたちがワンサワンサと詰めかけ、予定していた参加賞がたちまちなくなってしまった。

全種正解者はなかったが、一位に渡辺園松氏が、二位に小嶋明男、横井雲子両氏、三位に阿部一、五十嵐コシミ、栗原喜二の三氏が入賞した。

（清酒試飲コンクール）

小林存記念歌碑建立発起人会でも横越小学校前に記念碑の除幕式と武道館で小林存遺墨展を開催した。

第二回村民新年

俳句大会

一、日時　一月十九日　午前九時
一、場所　横越村公民館
一、兼題　通じて六句
○初　詣　○福寿草
○事務初　○初　風
○初　催
一、兼題〆切　十二月十五日公民館内俳句係まで
一、席題　当日発表　午前十一時〆切
一、選者
あがきよし、丸山東本
鈴木松鶴、長野鶴雲、
野崎声青、東城雲秋、
今井天花、坪谷十九一
今井夫子、田中郁郎
一、投句料　無料
なお、大会当日観覧会があり参加者選者は五〇〇円を受付で納入のこと。